

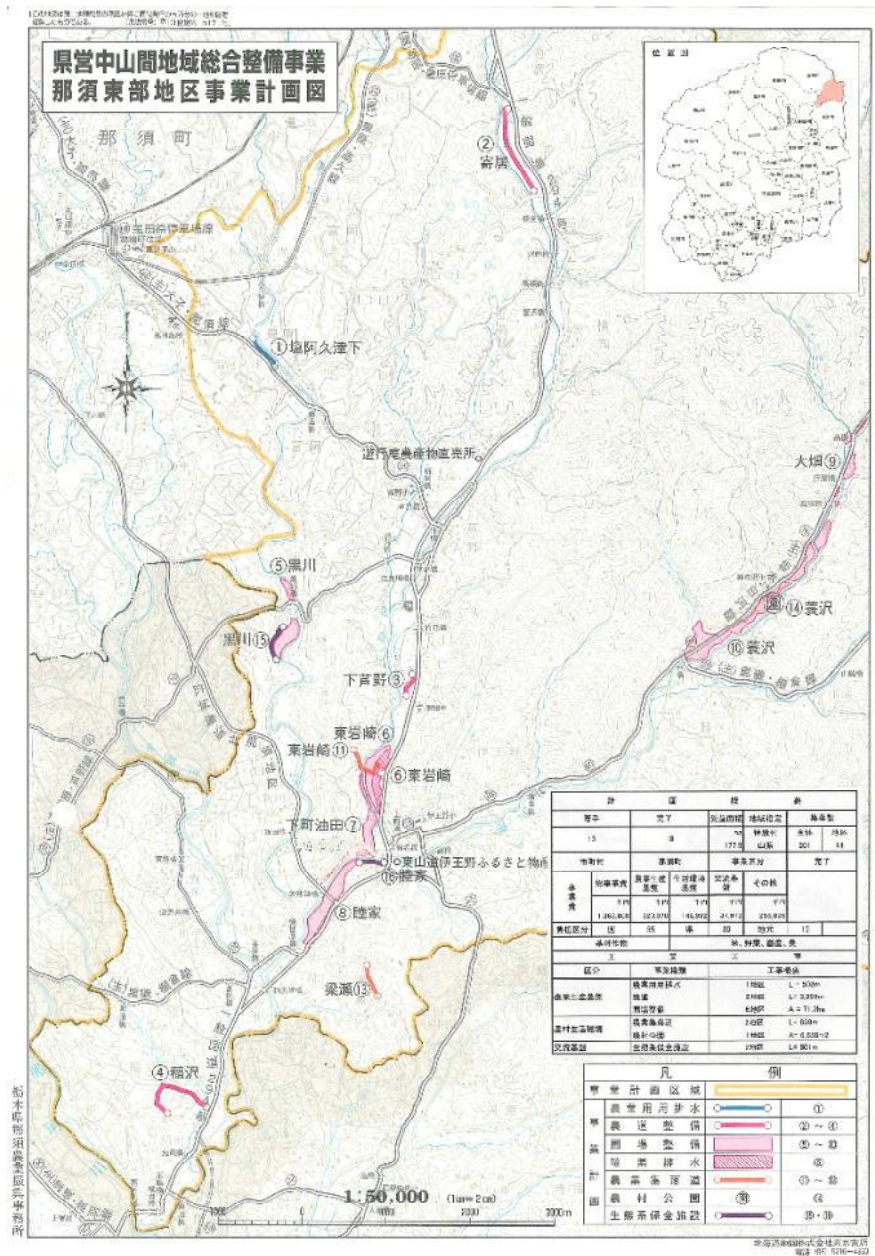
県営中山間地域総合整備事業 那須東部地区（平成19年3月完成）

資料6-③

1. 事業概要

本地区是那須町東部の那須連山と八溝山系に囲まれた谷地田地帯に位置し、豊かな自然環境があるものの、農業生産基盤及び生活環境基盤が未整備で平地に比べて不利な条件にあるため、以下の整備を行いました。

- ◆ 事業名：県営中山間地域総合整備事業
- ◆ 事業箇所：那須町
- ◆ 主要工事：農業生産基盤整備
 - ほ場整備71ha（6地区）、農業用排水路整備0.5km（1地区）
 - 農道整備3.4km（3地区）
 - 農村生活環境整備
 - 農業集落道0.9km（2地区）、農村公園1カ所、生態系保全施設2カ所
- ◆ 総事業費：13.6億円
- ◆ 事業期間：平成13年度～平成18年度
- ◆ 事業主体：栃木県
- ◆ 受益面積：177.7ha
- ◆ 受益者数：307戸



2. 事業の目的

本地区は農業排水路や農道及びほ場が未整備であることに加え、後継者不足や、遊休農地が増加して地域の荒廃が進行している状況であった。

このため、農業生産基盤整備、農村生活環境整備を総合的に行い、営農の効率化・地域の活性化及び農村環境の改善を図っていく。

3. 事業の整備効果等

【事業費等の変化】

① 受益面積

土地利用の変化を踏まえ、177.7haに係る農業基盤整備を整備した。
148.0ha（採択時）→ 177.7ha（完成時）

② 総事業費

道路計画の見直し（1地区の減）に伴い、総事業費が減となった。
16.6億円（採択時）→ 13.6億円（完成時）

【営農の効率化】

① 労働時間の短縮

農地の区画拡大等により作業の効率化が図られ、ほ場整備実施地区では水稻にかかる労働時間が約35%短縮された。

〔労働時間の変化〕（圃場整備実施組合から聞き取り）

水稻：37.6hr/10a（整備前）→ 24.4hr/10a（整備後）35%減

② 維持管理の節減

農道、ほ場等の整備により管理労力の軽減がなされ、堀ざらい、草刈り等に掛かる維持管理経費が、ほ場整備実施地区では35%節減された。

〔維持管理費の変化〕（圃場整備実施組合から聞き取り）

ほ場：12.2百万円/年（整備前）→ 7.9百万円/年（整備後）35%減

③ 耕地利用率の向上

ほ場整備実施地区では、用水の安定供給や排水改良、耕作放棄地の解消等が図られたことで、作物栽培条件が改善され、耕地利用率が約36%向上した。

また、ほ場への大型機械の導入が可能となり、効率的な農業経営が図られた。

〔耕地利用率の変化〕（現況作付状況調査から）

60.4%（整備前）→ 95.9%（整備後）



区画整理（整備前）

区画整理（整備後）

④ 適切な水管理、排水改良

農業用水路整備により、水管理の改善、排水不良の解消が図られた。



農業用排水施設（整備前）



農業用排水施設（整備後）

⑤ 農産物輸送の合理化、利便性の向上

農道整備により、狭い幅員や急勾配などの条件が解消、農産物輸送が合理化されるとともに、農業集落道整備により、地域住民の利便性が大幅に向上した。



農道（整備前）



農道（整備後）

【地域の活性化】

・都市住民との交流

農村公園、遊歩道、駐車場等の整備により、都市住民との交流が活発になるとともに、地域の活性化が図られた。

〔施設利用状況〕 彼岸花祭りの観光客数2,000人程度（菘沢集落から聞き取り）



管理状況



彼岸花とはず掛け

【農村環境の改善】

① 農村環境の改善

農業生産基盤の整備、特にほ場整備の実施により、地区では耕作放棄地の発生が抑制されている。また、集落道路の整備により緊急車両の通行が容易になり、農村生活環境が向上した。

②動植物の生息環境の創出

黒川地区において生態系保全施設を動植物の生息環境に配慮した水路として整備することで、現在では絶滅危惧種（カワシンジュガイ、ホタル）を含む多くの動植物の生息が確保されており、地域住民の憩いの場としての活用とともに、環境意識の高揚が図られた。



生態系保全水路



きれいな水が環境を守る

4. 事業により整備された施設の管理状況

- ・ ほ場、農業用排水施設は地域受益者により適切に管理されている。
- ・ 農道は、那須町により適切に管理されている。
- ・ 農村公園は、地域住民により草刈り等を年3回程度実施し、適切に管理されている。

5. 事業実施による環境の変化

特になし

6. 社会経済情勢の変化

特になし

7. 地域住民からの声（代表事例）

○ 農家

- ・ 農作業時間が整備前と比較して3割から4割減った。維持管理費も同様ぐらい減った。
- ・ 水持ちが良く米の収量が整備前は8俵であったが9俵から9俵半くらい取れるようになった。
- ・ 整備前は地区内の15%ぐらい耕作放棄地であったが、それらが全て解消された。
- ・ 暗渠排水も実施したが、効きがもう少しよければよかったと感じる。
- ・ 地区内は土水路がコンクリート水路で装工され、効率的に用水が使えるようになり、維持管理も水廻り等の維持管理も軽減された。
- ・ 農道整備事業により、舗装を実施したことにより、生活環境が非常に良くなった。
- ・ 中山間事業でトイレ整備が出来なかったのが残念である。
- ・ 整備をして条件がよくなったが、後継者のことを心配している農家もいる。
- ・ 圃場整備の実施により、地域が明るく、元気になったと思われる。

○ 非農家

- ・ 幹線道路は子供たちの通学路となっており、安全に通学が出来るようになった。
- ・ 生態系についてはやはり整備前と比較して減少していると思う。特に河川からは魚が思うように上がれなくなってしまった。
- ・ 事業により農村公園、遊歩道、駐車場等を整備したことにより、10月の彼岸花祭りには約2,000人の観光客が訪れるようになった。彼岸花祭りに併せて地区内の田んぼではぜ掛け（天日乾し）を行い、彼岸花とセットで良好な農村風景を形成している。

8. 今後の課題等

- ・ 今後は、整備された農業生産基盤および生活環境基盤をさらに活用して、中山間地域の特徴を活かした農産物の特産化を推進するとともに、農産物直売所（道の駅等）を通して販路の拡大を図っていく必要がある。
- ・ また、地域の更なる活性化を図るため、農村公園や生態系配慮施設を拠点として、地域コミュニティの醸成、及び都市住民との交流を促進する必要がある。

栃木県農政部農村振興課

TEL : 028-623-2334 FAX : 028-623-2337

HP : <http://www.pref.tochigi.lg.jp/>

E-mail : noson-sinko@pref.tochigi.lg.jp

